

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 まず声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は、敬語が「誰から誰への敬意か」と、「られ・れ」の識別、そして「いかが〜べき」の反語です。

あらすじ＝恵心僧都の妹・安養の尼の家に強盗が入り、家財を根こそぎ奪って行った。盗人が落とした小袖を小尼公が拾って届けると、尼上はそれを受け取らず、逆に盗人へ返してくるように言いつける。追いかけられた盗人たちはしばらく考えこみ、ひとこと言い残して、奪った物をすべて返して帰った。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

横川（よかわ）の恵心僧都（ゑしんそうづ）の妹、安養の尼のもとに強盗入りて、^①あるほどの物、みな取りて出でにければ、尼上は紙衾（かみぶすま）といふものばかりを引き着て^②居（ゐ）られたるに、姉なる尼のもとに、小尼公（こあまぎみ）とてありけるが、走り参りて見ければ、小袖を一つ落したりけるを取りて、「これ落として^③侍（はべ）るなり。^④奉（たてまつ）れ」とて、持て来たりければ、尼上の^⑤いはれけるは、

「これを取りて後（のち）は、^⑥わが物とこそ思ひつらめ。^⑦主（ぬし）の^⑧心ゆかぬものをば、^⑨いかが着るべき。なほ^⑩持ておはしまして、^⑪取らせ給（たま）へ」

とありければ、門の方へ走り出でて、「やや」と呼び返して、「これを落とし給ひぬ。^⑫たしかに奉らん」と言ひければ、盗人ども立ち止まりて、^⑬しばし案じたる気色（けしき）にて、「^⑭悪（あ）しく参りにけり」とて、取りたりける物どもを、^⑮さながら返し置きて帰りにけり。

語注 横川＝比叡山延暦寺の三つの区域の一つ。恵心僧都が住んだ地。恵心僧都＝比叡山の横川に住んだ平安時代中期の高僧。僧都＝僧の位の一つ。安養の尼＝恵心僧都の妹。「安養」は極楽浄土の別名。強盗＝押し入って物を奪う盗賊。紙衾＝紙で作った粗末な夜具。小尼公＝安養の尼の姉である尼のもとにいた尼。「小」は若い者への呼び方。小袖＝袖口の小さい、ふだん着の着物。なほ＝やはり。それでもやはり。おはします＝「行く・来」の尊敬語。いらつしやる。取らす＝与える。くれてやる。やや＝もしもし。呼びかけの語。しばし＝しばらく。

A 語句の意味と読み (1～6)

- (1) ①の中の「あるほどの物」の、ここでの意味を書け。
- (2) ⑦「主(ぬし)」は、現代語の「主人・あるじ」とどう違うか。ここでの意味を書け。
- (3) ⑧「心ゆかぬ」の意味を書け。もとの形「心ゆく」の意味も添えること。
- (4) ⑬の「案じ」(終止形「案ず」)の、ここでの意味を書け。
- (5) ⑬の「気色(けしき)」の意味を、現代語の「景色」との違いがわかるように書け。
- (6) ⑮「さながら」の、ここでの意味を書け。

B 文法 (7～12)

- (7) ①の中の「出でにければ」の「に」は何の助動詞の何形か。
- (8) ②「居(ゐ)られたる」の「られ」は何の助動詞の何形か。意味(用法)も書け。
- (9) ⑤「いはれける」の「れ」は何の助動詞の何形か。意味(用法)も書け。
- (10) ⑥「思ひつらめ」の「らめ」は何の助動詞の何形か。
- (11) ⑥で、文末が已然形「らめ」になっているのはなぜか。文法的に説明せよ。
- (12) ⑨「いかが着るべき」は反語である。結びの「べき」が連体形になっているのはなぜか説明せよ。

C 敬意の方向・指す内容 (13～17)

(13) ③ 「侍(はべ)るなり」の「侍り」は敬語の種類として何か。また、誰から誰への敬意か。

(14) ④ 「奉れ」は敬語の種類として何か。また、どういう意味か。

(15) ⑦ 「主(ぬし)」とは、具体的に誰を指すか。

(16) ⑩ 「持ておはしまして」・⑪ 「取らせ給(たま)へ」は、誰から誰への敬意を表すか。

(17) ⑫ 「たしかに奉らん」の「奉る」は敬語の種類として何か。また、誰に対する敬意か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ① 「あるほどの物、みな取りて出でにければ」を口語訳せよ。

(19) ⑥ 「わが物とこそ思ひつらめ」を、主語を補って口語訳せよ。

(20) ⑦・⑧・⑨を含む「主(ぬし)の心ゆかぬものをば、いかが着るべき」を口語訳せよ。

(21) ⑭ 「悪(あ)しく参りにけり」を、盗人の気持ちがわかるように口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ③・④で小尼公が小袖を持って来たときの考えと、⑪「取らせ給(たま)へ」で尼上が命じたこととは、小袖の持ち主のとらえ方がどう食い違っているか。五十字以内で書け。

(23) ⑬「しばし案じたる気色(けしき)にて」とあるが、盗人たちが立ち止まって考えこんだのは、何を見聞きしたからか。⑭の内容にふれて、六十字以内で書け。

(24) ⑮「さながら」を含む「さながら返し置きて帰りにけり」とあるが、盗人たちがそうしたのはなぜか。心の動きをふまえて、五十字以内で書け。

(25) ⑮までの流れをふまえて、この話が読者に伝えようとしている教訓は何か。尼上の生き方にふれて、六十字以内で書け。

F 文学史 (26～28)

(26) この話の出典『十訓抄』について、成立した時代と、作品のジャンル(種類)を書け。

(27) 本文冒頭の「恵心僧都」とは誰のことか。その代表的な著作の名も書け。

(28) この話とほぼ同じ内容の話が収められている、鎌倉時代の説話集を一つ書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「る・らる」は主語で決める。②「居られたる」も⑤「いはれける」も、まず主語が誰かを確かめてから、尊敬・受身・可能・自発のどれかを決めます。「受身なら『～に』にあたる相手がいるか」「可能なら下に打消があるか」が目印です。②「いかが」は「いか」+係助詞「か」。⑨のように「いかが～べき」の形が出たら、疑問(どうして～か)か反語(～だろうか、いや～ない)かを前後のつながりで見分けます。結びが連体形になる理由も言えるようにしておきましょう。③「さながら」は現代語と意味がちがう。⑮を「まるで～のようだ」で訳すと通りません。記述は⑬「案じたる気色」→⑭「悪しく参りにけり」→⑮「さながら返し置きて」と、盗人の心が動く順に追って書きます。